福山市こども読書活動推進計画
（第四次）素案







【わくわく号訪問時のこどもたち】

こどものそばに　いつも　本を

福 山 市 教 育 委 員 会

目　　次

第1章　第四次計画の基本的な考え方

１　計画策定の趣旨 1

２　計画の位置付け 1

３　計画の期間 2

４　計画の推進と進捗管理 2

５ 施策体系 3

第2章　計画推進のための取組

１　家庭におけるこどもの読書活動の推進 4

２　地域におけるこどもの読書活動の推進 6

（1）図書館における取組 6

（2）交流館等における取組 11

３　学校等におけるこどもの読書活動の推進 14

（1）就学前教育・保育施設・放課後児童クラブにおける取組 14

保育所・幼稚園・認定こども園 14

放課後児童クラブ 15

（2）学校における取組 15

（参考資料）

こどもの読書活動に関するアンケート調査結果

第1章　第四次計画の基本的な考え方

１　計画策定の趣旨

こどもにとって読書は、言葉を学び、知識や様々な考え方に触れるとともに、感性や想像力、思考力、表現力を育む大切な活動です。本との出会いを通して、こどもが自ら興味や関心を広げ、豊かな人生を歩むための力を身に付けていくことにもつながります。

しかしながら、近年、新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル化の進展などによりこどもたちの生活は大きく変化し、読書の時間が減少しています。

こうした状況に対し、本計画の策定に当たり保護者及び高校生を対象に実施したアンケートでは、こどもの読書量について、「もっと読むべき」と回答した人が６割を超えるなど、多くの市民が読書の重要性を認識し、現状に課題を感じていることが分かりました。

また、障がいのあるこどもや日本語を母語としないこどもなど、多様な背景を持つこどもたち一人ひとりが、それぞれの状況に応じて読書を楽しめる環境を整えることも急務となっています。

こども一人ひとりが自分に合った本と出会い、読書を通じて世界を広げられるよう、家庭、地域、学校が連携し、こどもの「読みたい」という気持ちを大切にしながら、社会全体で読書活動を支えていきます。

［目標］

「こどものそばに　いつも　本を」

［基本方針］

・こどもの読書環境の整備を図ります。

・こどもの自主的な読書活動を支援します。

・こどもの読書活動の意義の普及に努めます。

２　計画の位置付け

この計画は、２００１年（平成１３年）に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、本市におけるこどもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に進めるために策定するものです。

策定に当たっては、国の「（第五次）子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「広島県子供の読書活動推進計画（第五次）」を踏まえるとともに、本市の

「福山みらい創造ビジョン」、「教育振興基本計画」、「こども計画」等の各種計画と連携します。

本計画の対象は、０歳から１８歳までのこども及びその保護者とします。

３　計画の期間

２０２７年度（令和９年度）から２０３１年度（令和１３年度）までの５年間

４　計画の推進と進捗管理

本計画に掲げる施策は、年度ごとに計画的に実施します。

取組の実施状況については、数値目標を設定した取組は、毎年度その達成状況を把握・評価するとともに、数値だけでは把握することが難しい取組についても、成果や課題を踏まえ、次年度以降の改善や充実につなげます。

また、こどもの読書を取り巻く社会環境の変化や国・県の施策等の動向を踏まえ、必要に応じて取組の見直しを行います。

５ 施策体系　（◎：主管課　　○：連携課）

区分		項目番号	主な取組	担当部署							
				ネウボラ推進課	図書館	まちづくり推進課	スポーツ協会青少年育成課（ネウボラ推進課）	保育指導課	保育施設課	教育推進課	福山中・高等学校
１家庭		①	親子健康手帳交付時の啓発	◎	○						
		②	子育て応援プレゼント事業の実施	◎	○						
		③	子育て講座「絵本の読み聞かせ」の実施	◎	○						
２地域	図書館	①	妊娠期の支援	○	◎						
		②	絵本の楽しさを伝えるおはなし会		◎						
		③	児童図書の貸出し		◎						
		④	保育施設等への移動図書館車「わくわく号」の訪問		◎						
		⑤	中学生や高校生に向けた支援	○	◎	○					○
		⑥	つながり支援	○	◎						
		⑦	電子図書・デジタル資料の活用		◎					○	○
		⑧	多様なこどもたちへの支援		◎						
		⑨	学校等への支援		◎					○	○
		⑩	団体への支援		◎	○		○	○		
		⑪	講座等の実施		◎			○		○	
	交流館等	①	社会教育活動事業の実施		○	◎					
		②	子育て交流事業の実施		○	◎					
		③	放課後子ども教室における読書活動の推進			◎					
		④	図書に関するサークル活動		○	◎					
		⑤	子育て支援事業の実施				◎				
		⑥	えほんの国「絵本に親しむ親子の場づくり」	◎	○						
３学校	就学前施設・放児クラブ	①	新たな絵本の部屋の整備					◎			
		②	絵本の読み聞かせ		○			◎			
		③	団体貸出の利用		○				◎		
	学校	①	計画的・組織的な学校図書館整備・運営							◎	◎
		②	様々な本に親しみ、表現する取組の充実							◎	◎
		③	保護者・地域への啓発							◎	◎

第２章　計画推進のための取組

この計画では、３つの基本方針に基づき、家庭、地域、学校がそれぞれの役割や責任を明確にし、社会全体でこどもの読書活動を推進します。

１　家庭におけるこどもの読書活動の推進

家庭は、こどもが日常生活の中で本に出会い、読書の楽しさを知る身近な環境の一つです。親子で本を楽しむ経験は、こどもの読書への興味や関心を育てるとともに、親子のコミュニケーションを深め、豊かな心の成長にもつながります。

特に、妊娠期から乳児期、幼児期にかけては、絵本などを通して親子で本に親しむ機会を持つことが大切です。妊娠中から絵本に触れたり、こどもに語りかけたりすることは、こどもの誕生を楽しみに待つ気持ちを育み、親子のつながりを深めるきっかけにもなります。

保護者がこどもと一緒に本を楽しみ、家庭での読書を継続していけるよう、妊娠期から子育て期にわたって、こどもの成長段階に応じた読書支援を行います。絵本や読み聞かせの大切さについて情報提供や啓発を行うとともに、家庭の中で親子が本を身近に感じ、読書を楽しむことができる環境づくりを進めます。

（取組内容）

①　親子健康手帳交付時の啓発

妊娠届出時に親子健康手帳（母子健康手帳）を交付する際、妊娠・出産に関する支援情報とあわせて、図書館が選定したおすすめ絵本の紹介チラシを配布し、妊娠期から絵本に親しむことの大切さを伝えます。

②　子育て応援プレゼント事業の実施

産前面談でネウボラ相談窓口「あのね」を訪れた妊婦に赤ちゃん向けの絵本を含む育児用品を贈り、出産や育児への不安に寄り添うとともに、親子のふれあいを育む読書活動を支援します。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
プレゼント配布率	71．6%	80%



ネウボラ相談窓口「あのね」での啓発



子育て応援プレゼント事業

③　子育て講座「絵本の読み聞かせ」の実施

「ふくやま子育て応援センター キッズコム」において、図書館司書が妊婦や乳幼児の保護者を対象に、絵本の選び方や読み聞かせの楽しさを紹介し、妊娠期から親子で本に親しむことの大切さを伝えます。



図書館司書による講座

２ 地域におけるこどもの読書活動の推進

（1）図書館における取組

図書館は、地域におけるこどもの読書活動を推進する中核的な拠点です。こどもにとっては、読みたい本を自由に選び、こども自身が読書の楽しみを発見できる場所です。また、保護者にとっては、こどもに読ませたい本を選び、読書について図書館司書に相談することで、本を通じた親子のふれあいの大切さを知ることができる場所でもあります。アンケートでは、「どのような本を読めばよいのかわからない」という声も一定数見られました。このような選書に関する不安や疑問に応えることも、図書館の重要な役割です。

こどもたちが読書を通して心を育み、たくましく生きる力や読書の習慣を身につけられるよう、資料の充実を図ります。

（取組内容）

①　妊娠期の支援

妊娠期は、おなかの赤ちゃんと心を通わせる大切な時間です。絵本の読み聞かせは、赤ちゃんの心と脳の発達を促すだけではなく、保護者にとっても心安らぐひとときとなります。また、絵本がコミュニケーションツールとなり、親子の絆を深めるきっかけにもなります。

妊娠期における絵本の読み聞かせの大切さを広く伝えるため、妊婦及びその家族を対象に啓発資料の配布や講座等を実施し、妊娠期からの継続した支援を行います。



小冊子「あかちゃん・えほん・だいすき」

②　絵本の楽しさを伝えるおはなし会

絵本の読み聞かせや手遊び、わらべうた、紙芝居などを行う、赤ちゃんとその保護者を対象とした「あかちゃんといっしょのおはなし会」や、科学絵本や昔話など、年齢を問わず楽しめるプログラムを行うおはなし会など、様々なこどもたちが絵本に親しめるおはなし会を開催します。

おはなし会の後には、参加者同士の交流や発達段階に応じた本の案内などの個別の読書相談ができる場を増やします。

また、読まなくなった絵本や児童書を次のこどもたちへつなぐ「こどもの本の交換会」を開催します。新しい本と出会うきっかけをつくるとともに、読書体験を分かち合える、本を介した交流の場を提供します。





おはなし会の様子

③　児童図書の貸出し

図書館では、乳幼児期から成長に応じて本に親しめるよう、「あかちゃん絵本コーナー」「児童コーナー」「ヤングコーナー」などを設けています。

絵本の大切さや図書館の児童サービスを紹介するチラシやおはなし会、ＳＮＳなどを通じて情報を発信し、こどもたちが本に興味を持ち、家庭で本に親しむ時間を増やすよう取り組みます。



中央図書館児童コーナー

（数値目標）

[こども（0歳～15歳）一人当たりの貸出冊数]

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
児童図書の年間貸出冊数	13．5冊	15冊

④　保育施設等への移動図書館車「わくわく号」の訪問

絵本や図鑑などを積載した移動図書館車「わくわく号」で、市内の保育施設等を訪問し、各施設の要望に応じた本の貸出しやおはなし会を行います。アンケートでは、保護者が読み聞かせを始めたきっかけとして「幼稚園や保育所、こども園で絵本を借りてくるから」という回答が約３割を占め、保育施設等が家庭での読書活動のきっかけの一つとなっていることがうかがえます。このことから、移動図書館車による訪問は、園での読書機会を提供するだけでなく、家庭での読み聞かせを促す上でも重要な役割を担う取組です。

こどもたちが自ら本を選ぶ体験や、たくさんの本とふれあうことを通して、興味・関心の幅を広げ、本に親しむ機会を増やします。



移動図書館車「わくわく号」

⑤　中学生や高校生に向けた支援

中高生の不読率は依然として高く、読書離れが進んでいます。(※) アンケート結果では、「中高生向けの本を増やしてほしい」、「中高生対象のイベントをしてほしい」などの意見が多かったことから、中高生に人気の本や話題の本を充実させるとともに、図書館ツアーや学校・関係機関と連携したイベントなどを開催し、興味や学びに応えられる図書館づくりを進めます。

※ 1か月の間に1冊も本を読まなかった生徒の割合（広島県）
2022年：中学生 14.4%　高校生 51.4%
2025年：中学生 21.0%　高校生 51.8%
広島県児童生徒学習意識等調査、広島県高等学校生徒質問紙調査

⑥　つながり支援

社会との関わりに難しさを感じているこどもたちにとって、図書館が安心できる居場所となり、社会参加のきっかけとなることを目指します。図書館サービスをホームページやＳＮＳなどを通じ効果的に発信し、「行ってみよう」と思ってもらえるよう認知度向上に努めます。

⑦　電子図書・デジタル資料の活用

学習端末を使用して電子図書の貸出・読書ができるよう、公立小中学校のこどもたち一人ひとりにＩＤを付与しています。学習端末への情報発信や電子図書の充実を図り、こどもたちに活用してもらえるよう取り組みます。

また、地域の歴史や文化に関する調べ学習の教材として活用できるよう、郷土資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブを構築します。



電子図書サービス（トップ画面）



福山市図書館キャラクター
「としょ子」

⑧　多様なこどもたちへの支援

誰もが読書を楽しめる「読書バリアフリー」を推進しています。電子図書、外国語で書かれた本、大型絵本、点字図書、ＬＬブック(※)など多様な資料を収集し、支援を必要とするこどもたちと保護者へ提供します。

また、中央図書館に手話通訳者を配置し、耳の不自由な方の利用支援のほか、「手話のおはなし会」や「図書館だより」で手話の啓発を行います。

※ 知的障がいや発達障がい等、読むことが難しい人に向けて作られた、写真や絵・絵文字・短い言葉で構成された本



中央図書館点字コーナー



手話のおはなし会

⑨　学校等への支援

学校における調べ学習などを支援するため、本の選書・貸出しを行います。図書館の棚から直接本を選んで借りる方法のほか、各校の希望に応じてテーマごとに選書した図書のセットの貸出しも行います。

また、小学校や保育施設などを対象に、図書館見学を受け入れています。館内の案内や絵本の読み聞かせを通して、こどもたちが図書館の使い方を学び、本に親しむきっかけを提供します。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
学校への図書支援の 年間貸出回数	175回	230回

【図書のセット貸出の一例】

- のりもの
- 昆虫飼育
- 昔のくらし
- 平和学習
- ボランティア・バリアフリー
- リサイクル
- 進路



⑩　団体への支援

こどもたちが利用する施設や団体を対象に、個人貸出より多くの本を長期間貸出す団体貸出を行います。図書館の棚から直接本を選んで借りる方法のほか、読みものを中心とした本のセット貸出を行います。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
年間登録団体数	197団体	220団体

⑪　講座等の実施

家庭での読書習慣づくりの支援を行うため、保護者などを対象に年齢等に応じた絵本の選び方の講習や、わらべうたや手遊びなどの実演を行う講座を実施します。また、こどもと本をつなぐボランティアを育成するため、読み聞かせの方法などの講座を実施し、地域ぐるみでこどもたちの読書を支える輪を広げます。

(2) 交流館等における取組

交流館は、こどもが地域の中で本に親しみ、読書を通じて友だちや身近なおとなと交流することができる場です。読書の楽しさを共有する経験や、本の魅力を伝えてくれるおとなとの出会いは、こどもの読書への興味や関心をさらに広げることにつながります。

地域の図書室や地域文庫等では、それぞれの地域のニーズを踏まえた読書活動を進めます。また、図書館による講師派遣等を活用し、地域における読書活動を支える人材の育成を図るとともに、地域の読み聞かせグループ等と連携しておはなし会を開催するなど、こどもが地域の中で本に親しむ機会の充実を図ります。

（取組内容）

①　社会教育活動事業の実施

交流館等において、親子や家族の関係を豊かにする参加型学習会「『親の力』をまなびあう学習プログラム」や、地域の読書ボランティアによる絵本の読み聞かせを行い、親子で本に親しむ機会を提供します。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
主催講座の実施箇所	15館	20館

②　子育て交流事業の実施

交流館等において、ボランティアによる親子を対象とした絵本の読み聞かせや、キッズスペース等への絵本の設置などを行い、本の楽しさを共有する中で、親子同士や地域ボランティア等との交流を深めます。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
主催講座の実施箇所	5館	10館

③　放課後子ども教室における読書活動の推進

放課後子ども教室において、各学区の実情に応じて、図書室での読書や読み聞かせなど、本に親しむ活動を行います。こどもが安心して過ごす中で読書に触れ、自ら本を楽しむ機会の充実を図ります。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
読書活動の実施箇所	10教室	15教室

④　図書に関するサークル活動

交流館等で行われている図書に関するサークル活動を通じて、読み聞かせや本の貸出しなど、地域で本に親しむ機会を提供します。こどもや保護者、地域住民が本を通して交流し、身近な地域で読書を楽しむことのできる場となるよう取組を進めます。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
活動サークル数	14団体	20団体

⑤　子育て支援事業の実施

福山市自然研修センター「ふくやまふれ愛ランド」において、「ふれ愛あそび」等の子育て支援事業に絵本の読み聞かせや紙芝居を取り入れ、親子で本に親しむ機会を提供します。

⑥　えほんの国「絵本に親しむ親子の場づくり」

「えほんの国」に季節や年齢に応じた絵本のコーナーを設けるとともに、毎日の読み聞かせや、リズムあそび、ふれあいあそび、創作活動、イベント、ワークショップなどを行います。絵本を身近に感じ、親子で絵本の世界を楽しみながらふれあう機会を提供します。





毎日の読み聞かせ

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
えほんの国 年間利用者数	49，148人	50，000人

福山市えほんの国

２０２１年（令和３年）５月１日に福山駅前商業施設内にリニューアルオープンしました。約５，０００点の絵本が並び、絵本の読み聞かせ、人形劇等親子で楽しめるイベントを実施し、ワークショップでは季節のおもちゃ作り等を行います。

３ 学校等におけるこどもの読書活動の推進

(1) 就学前教育・保育施設・放課後児童クラブにおける取組

【保育所・幼稚園・認定こども園】

保育所、幼稚園、認定こども園では、「福山市教育・保育カリキュラム」に基づき、発達段階や興味に応じた読書活動を進めます。

就学前の時期は、豊かな感性や想像力、思考力などを育む大切な時期です。アンケートでは読み聞かせの効果に「想像力が広がる」「新しい言葉や知識を得る」という意見が多く、家庭で読む本の入手先は「保育所、幼稚園、こども園での貸出し」が最も多く、家庭での読書活動を支えるうえで保育所等が大きな役割を担っていることが示されました。

今後も、絵本コーナーの設置や展示の工夫、掲示物やお便りでの情報提供等、家庭で読書を楽しめるよう支援していきます。

さらに、図書館や地域ボランティア等と連携し、こどもが様々な本や人に出会い、読書を楽しむ機会の充実を図ります。

（取組内容）

① 絵本の部屋の整備

こどもと保護者が様々な本に出会い、身近に親しめるように、絵本の部屋やコーナーを整備します。本の選び方や配架を工夫し、こどもが自ら本を手に取りやすい読書環境をつくります。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
絵本の部屋を 整備した所（園）	18／52所（園）	48／48所（園）

② 絵本の読み聞かせ

発達段階やこどもの興味、季節などに応じた絵本を選び、読み聞かせを行います。絵本の世界を楽しむ中で、言葉への関心を高めるとともに、感性や想像力、表現する力を育みます。

アンケートでは、保護者が読み聞かせをするきっかけとして「小さい頃に本を読んでもらったから」という回答が最も多く、幼少期の読書体験が次世代の

読書習慣に引き継がれていることがうかがえます。このことから、保育所、幼稚園、認定こども園等と家庭が連携し、読み聞かせの機会の充実を図ることは極めて重要です。

読み聞かせを通して育まれる豊かな心や言葉の力について保護者の理解を促し、家庭での読み聞かせにつなげていきます。

【放課後児童クラブ】

放課後児童クラブでは、小学校１年生から６年生までの児童が放課後等を過ごす中で、本に親しみ、自主的に読書を楽しめる環境を整えます。

図書館の団体貸出を活用し、児童が様々な本に触れる機会を提供するとともに、身近な場所で本を手に取ることができる読書環境の充実を図ります。

（取組内容）

③　団体貸出の利用

図書館の団体貸出を活用し、放課後児童クラブで幅広い本に触れる機会をつくることで、児童が身近に読書を楽しめる環境を整えます。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
団体貸出の 利用クラブ数	26クラブ	55クラブ

(2) 学校における取組

学齢期は、生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育む大切な時期です。学校では、読書を通して児童生徒の思考力や表現力を育むことが求められます。

そのため、各学校の特色を生かしながら、魅力的な学校図書館づくりを進めていきます。

また、児童生徒が自ら本を選び、読書の楽しさを感じられる取組を進めるとともに、学校での読書活動や家庭で本に親しむことの意義を保護者や地域に発信し、読書を取り巻く環境の充実につなげます。

（取組内容）

①　計画的・組織的な学校図書館整備・運営

学校図書館は、読書を楽しむ場であるとともに、言語能力や情報活用能力を育み、主体的な学びにつながる場として重要な役割を担っています。アンケートでは、保護者から学校図書館の利用を促すために「学校の授業で使うこと」を望む声が最も多くありました。こうした声を踏まえ、司書教諭や学校司書を中心に、児童生徒の興味・関心や学習内容に応じた本の整備・更新を進めるとともに、日常的な利用や授業等での活用を促し、読書と学びを深める学校図書館づくりを進めます。

また、図書館のデジタルアーカイブを活用し、デジタル化した郷土資料を授業等で使用するなど、地域についての学びを深める機会の充実を図ります。

（数値目標）

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
各校の蔵書率（※）の平均値	71．2%	80%以上

※ 文部科学省が定める「学校図書館図書標準」の基準冊数に対して、各校の学校図書館が実際に所蔵している冊数（蔵書冊数）の割合



学校図書館の様子

②　様々な本に親しみ、表現する取組の充実

発達段階や児童生徒の実態に応じ、読み聞かせや推薦図書の紹介、児童生徒同士による本の紹介など、本との出会いや読書経験を広げる活動を行います。

また、読書感想文、ＰＯＰづくり、ブックトーク等を通して、読んだ本について考えたことを話したり書いたりする機会を充実させ、読解力や表現力を

育みます。

高等学校では、中央図書館の見学や本の探し方を学ぶ機会を設ける等、様々な資料に触れる機会を充実させます。また、本などを活用して考えを深め、レポートやプレゼンテーション等で表現する活動やビブリオバトル(※)等にも取り組みます。

※ 発表者がそれぞれおすすめの本を持ち寄り、持ち時間内でその魅力を紹介し合い、最後に発表者と観客の投票で「最も読みたくなった本」を決める知的書評合戦

（数値目標）※広島県児童生徒学習意識等調査より

指　標	現 状 値 2025年度	目 標 値 2031年度
1か月の間に1冊も 本を読まなかった 児童・生徒の割合	小学生14．4% 中学生21．0%	小学生　4%以下 中学生11%以下



ビブリオバトルの発表の様子



福山中・高等学校図書館

③　保護者・地域への啓発

学校における読書活動の取組や家庭での読書の意義について、学校ホームページや「学校だより」「図書館だより」等を活用して保護者や地域に発信し、読書活動への理解と協力を促します。

（参考資料）

こどもの読書活動に関するアンケート調査結果

【目的】こどもたちの読書活動に関する実態や要望を把握し、より効果的な計画を策定するため

【対象】未就学児（市立の保育所・幼稚園・認定こども園の年長児）の保護者、市立小学校５年生の保護者、市立中学校２年生の保護者、福山高校１～３年生

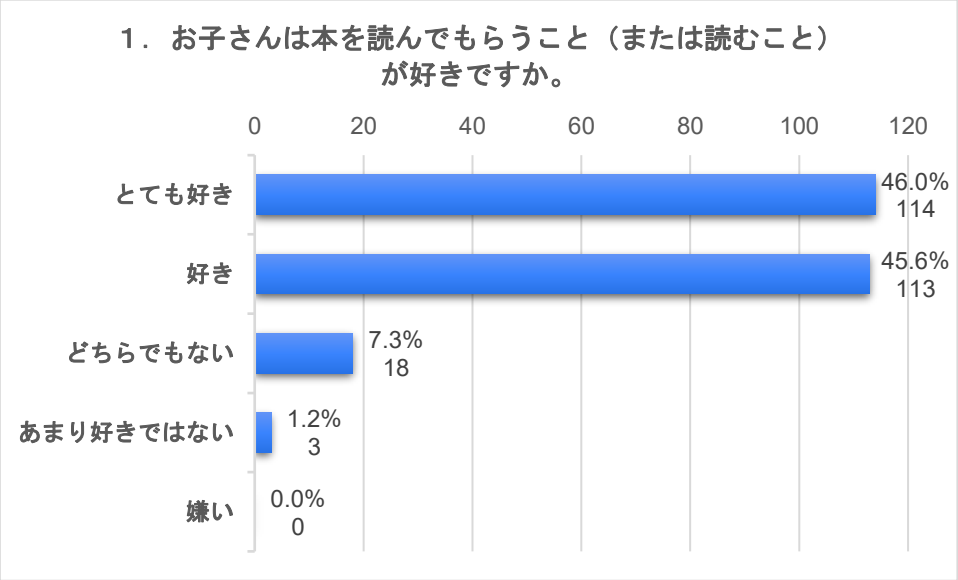
【期間】２０２６年（令和８年）６月１９日～６月３０日

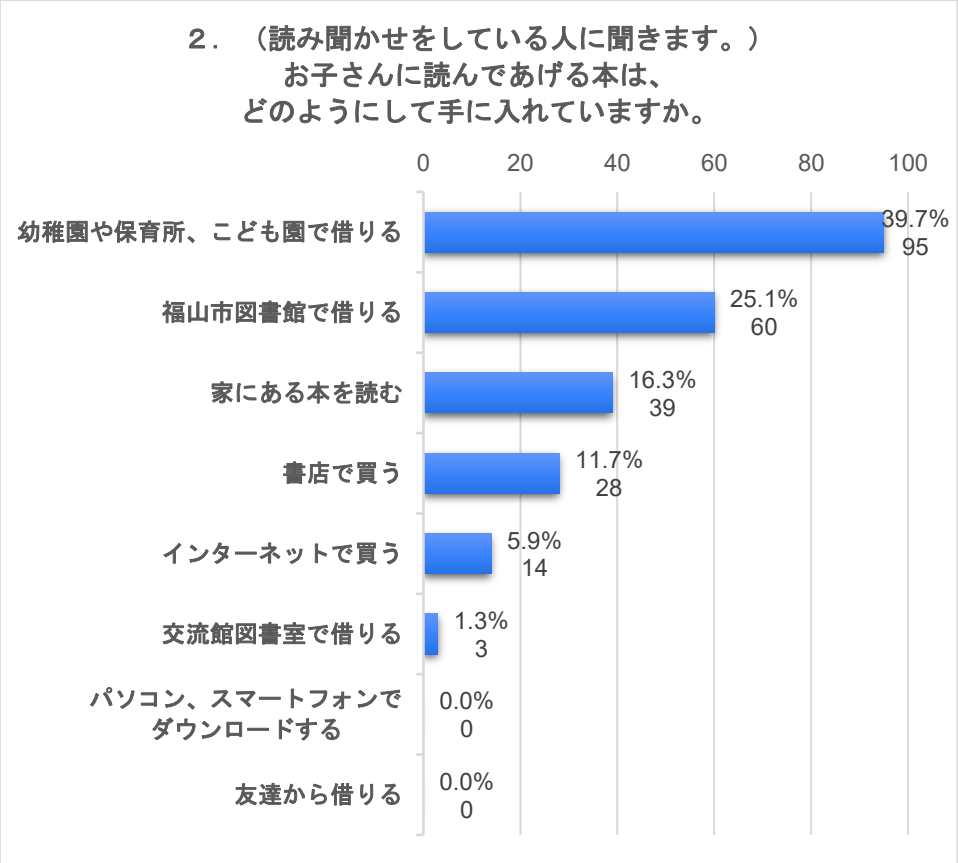
【方法】ＷＥＢアンケートフォームにより実施

【結果】

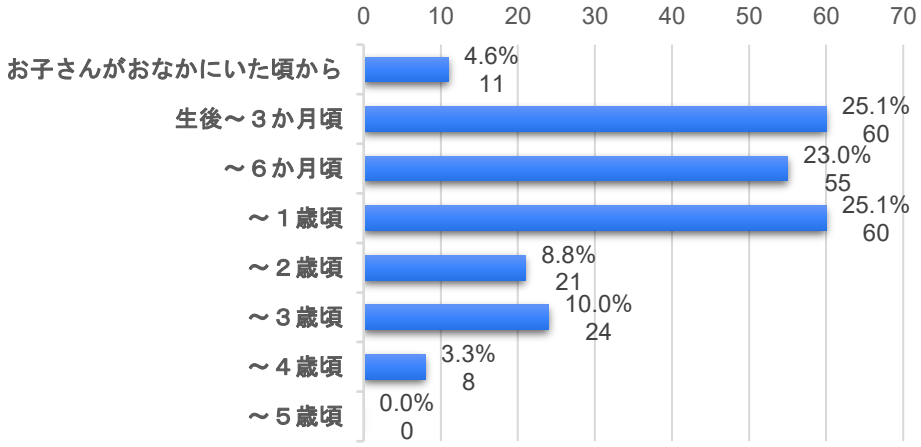
対象者	対象者数	回答数	回答率
未就学児（年長）の保護者	907	248	27.3%
小学５年生の保護者	3,938	884	22.4%
中学２年生の保護者	3,595	624	17.4%
高校１～３年生	586	351	59.9%
合計	9,026	2,107	23.3%

主なアンケート調査結果《未就学児（年長）の保護者》

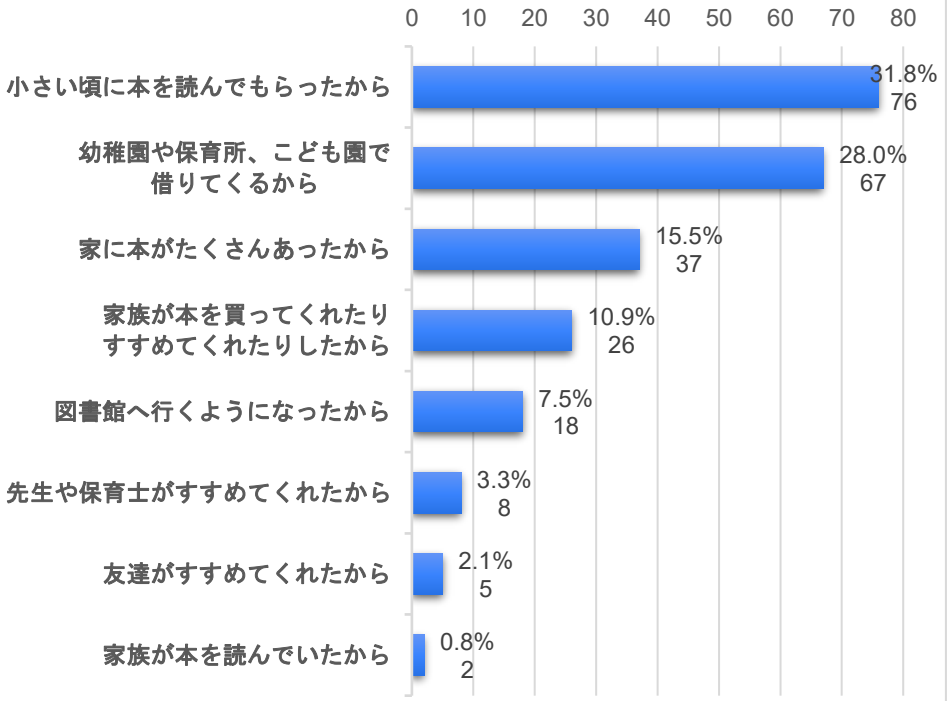




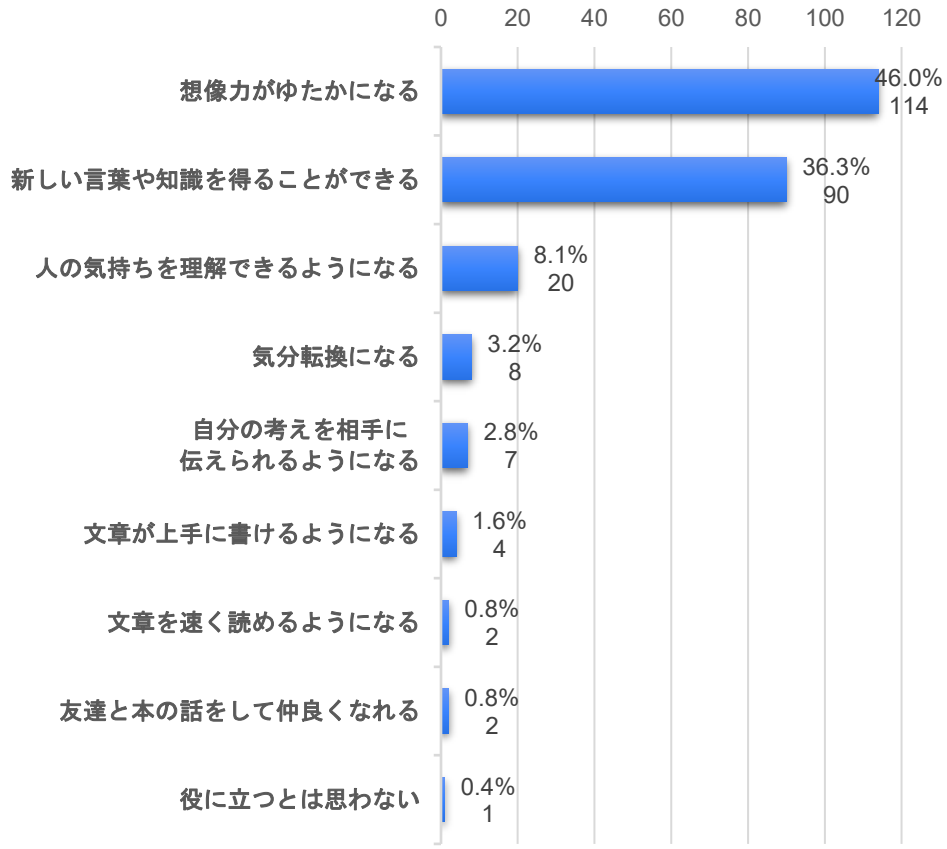
３．（読み聞かせをしている人に聞きます。）
あなた（保護者）ははいつ頃からお子さんに
読み聞かせをするようになりましたか。



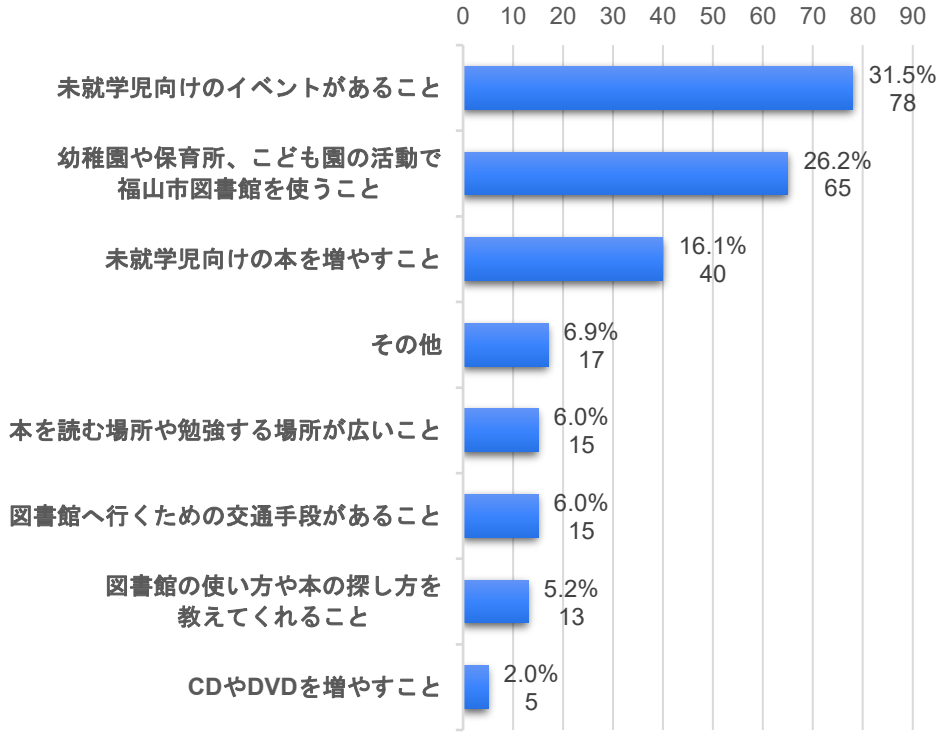
４．（読み聞かせをしている人に聞きます。）
あなた（保護者）がお子さんに読み聞かせを
するようになったきっかけは何ですか。

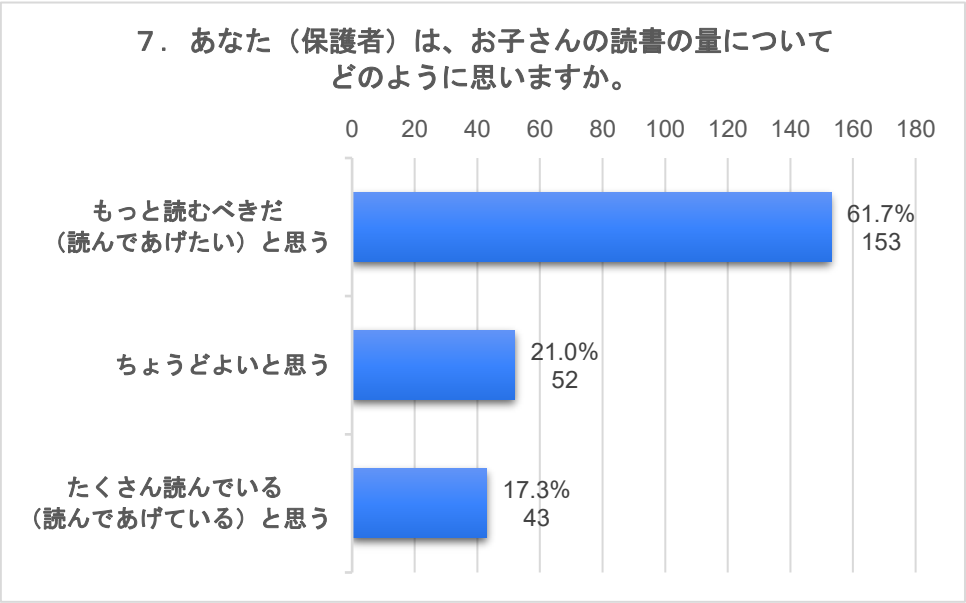


５．お子さんにとって、読み聞かせや読書はどんなことに役立つと思いますか。

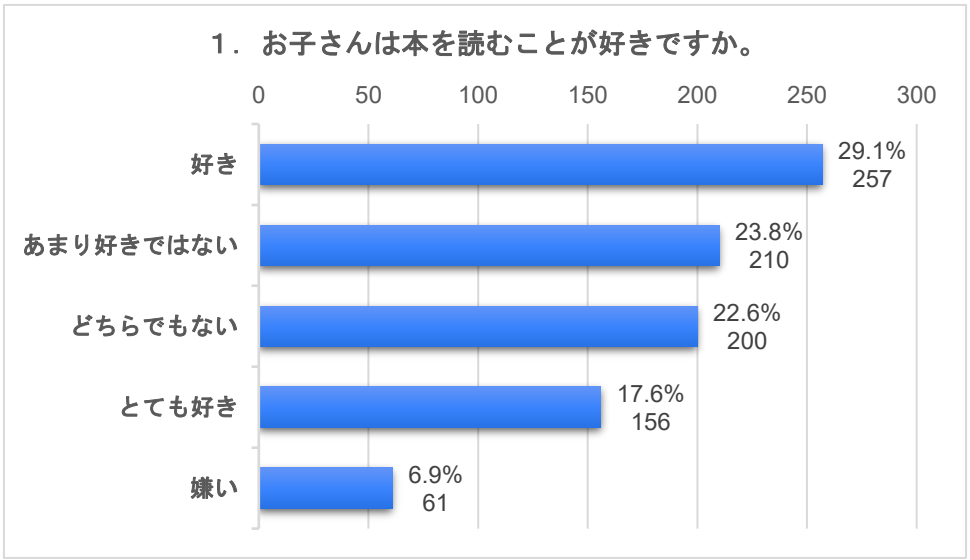


６．あなた（保護者）は、福山市図書館をもっと多くの未就学児に使ってもらうためには、どんなことが必要だと思いますか。

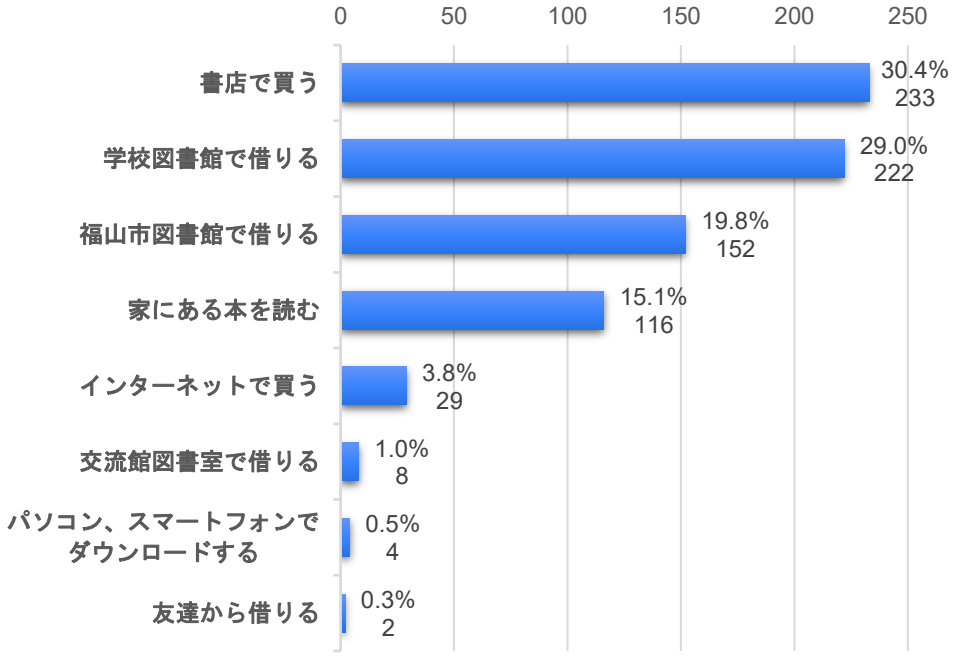




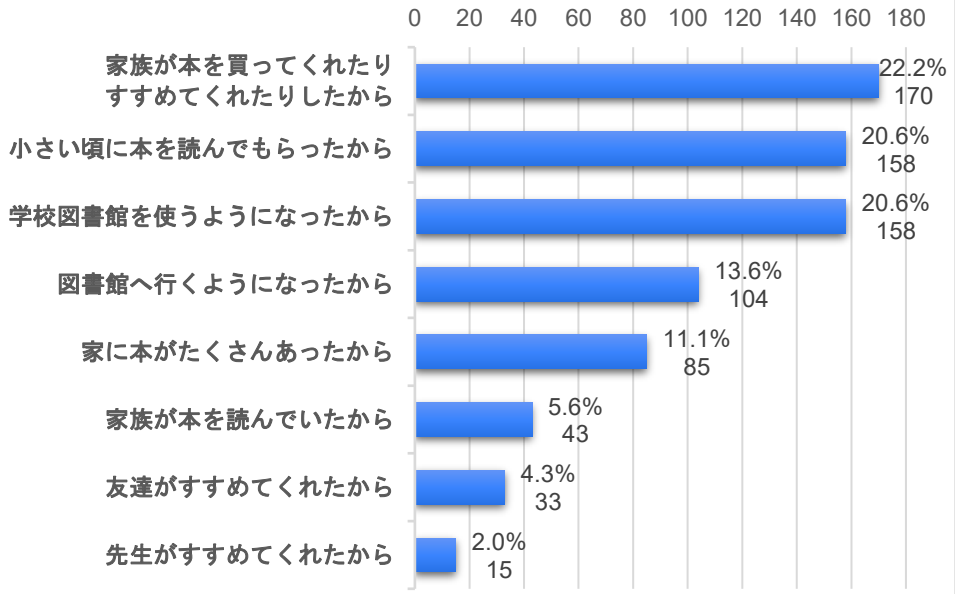
主なアンケート調査結果《小学５年生の保護者》

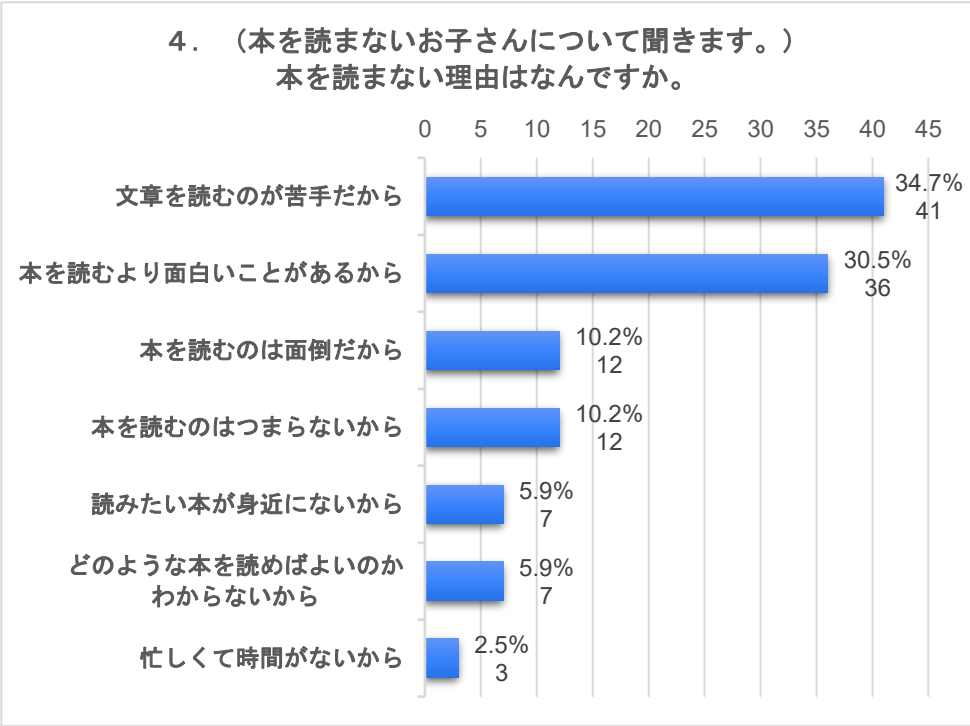


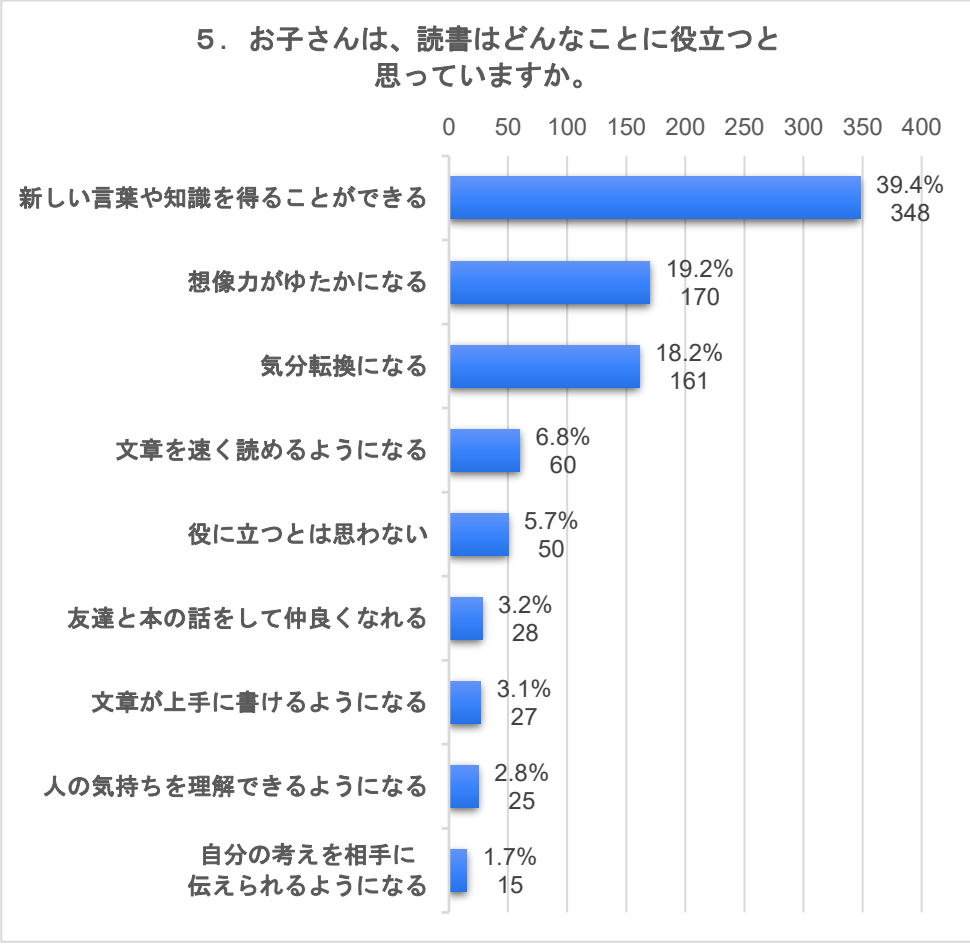
２．（本を読むお子さんについて聞きます。）
お子さんが読む本は、どのようにして
手に入れていますか。

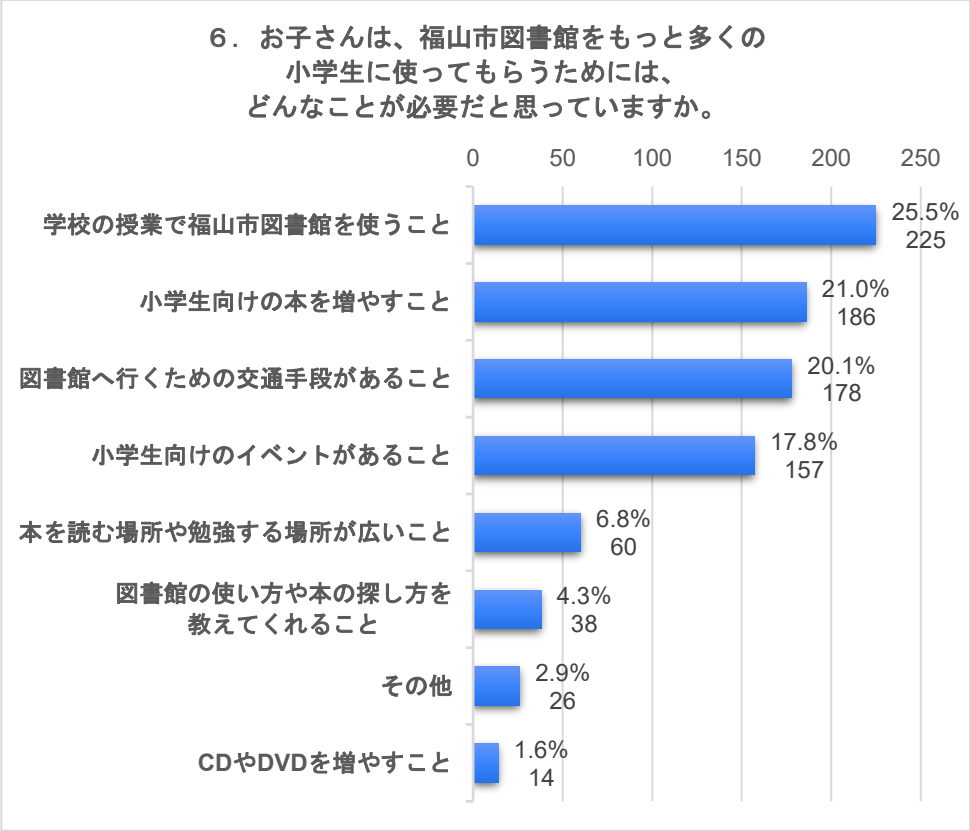


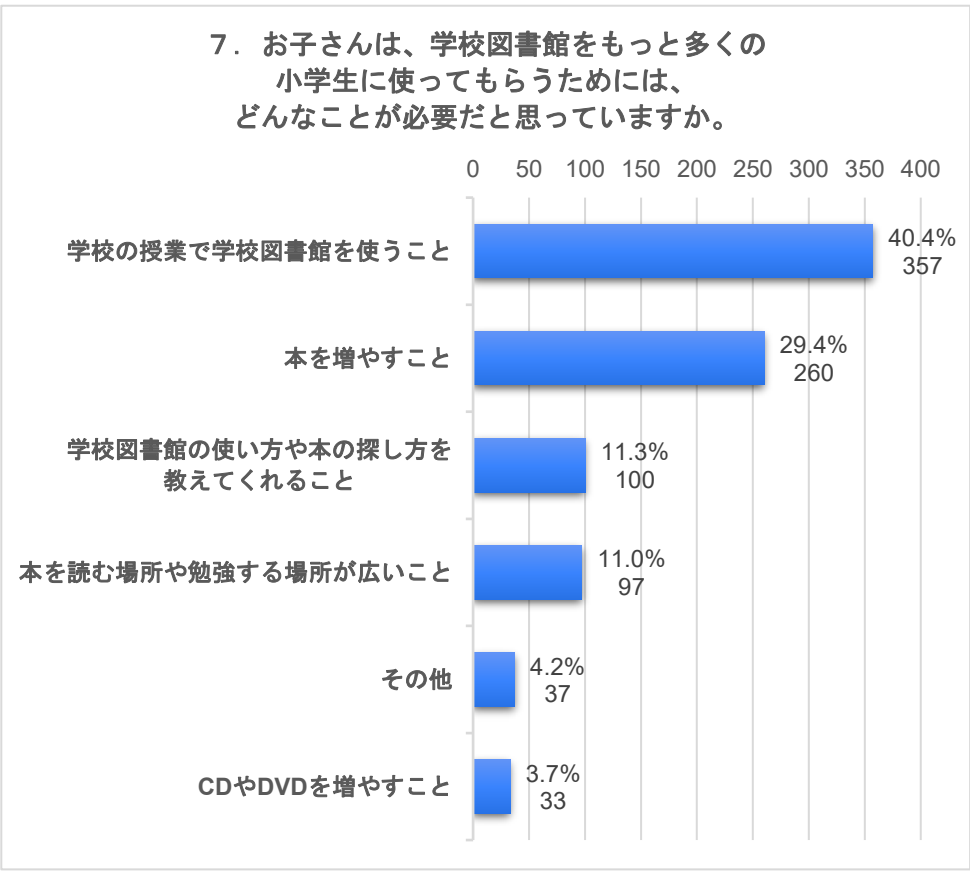
３．（本を読むお子さんについて聞きます。）
お子さんが読書をするようになったきっかけは何ですか。

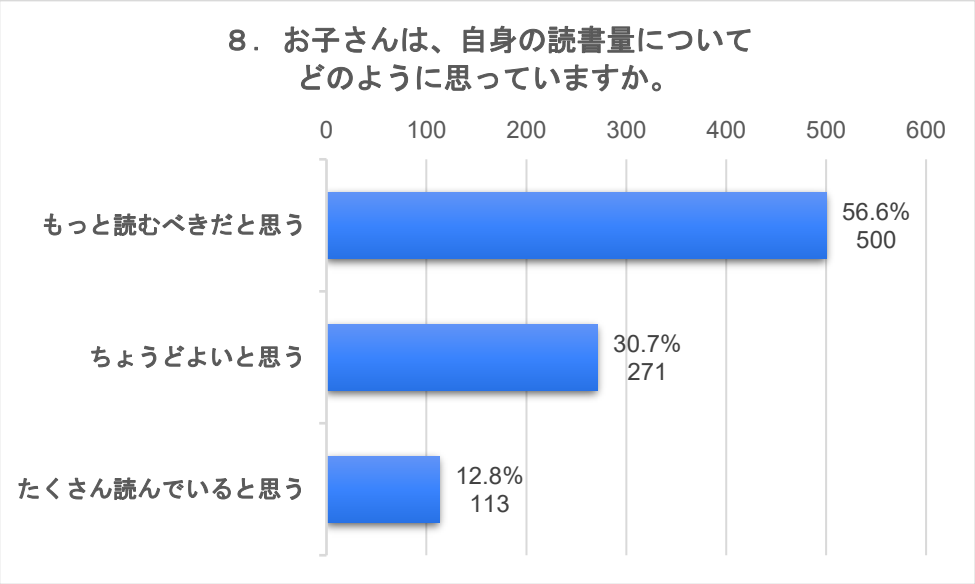



４．（本を読まないお子さんについて聞きます。）
本を読まない理由はなんですか。
0 5 10 15 20 25 30 35 40 45
文章を読むのが苦手だから
34.7%
41
本を読むより面白いことがあるから
30.5%
36
本を読むのは面倒だから
10.2%
12
本を読むのはつまらないから
10.2%
12
読みたい本が身近にないから
5.9%
7
どのような本を読めばよいのか
わからないから
5.9%
7
忙しくて時間がないから
2.5%
3

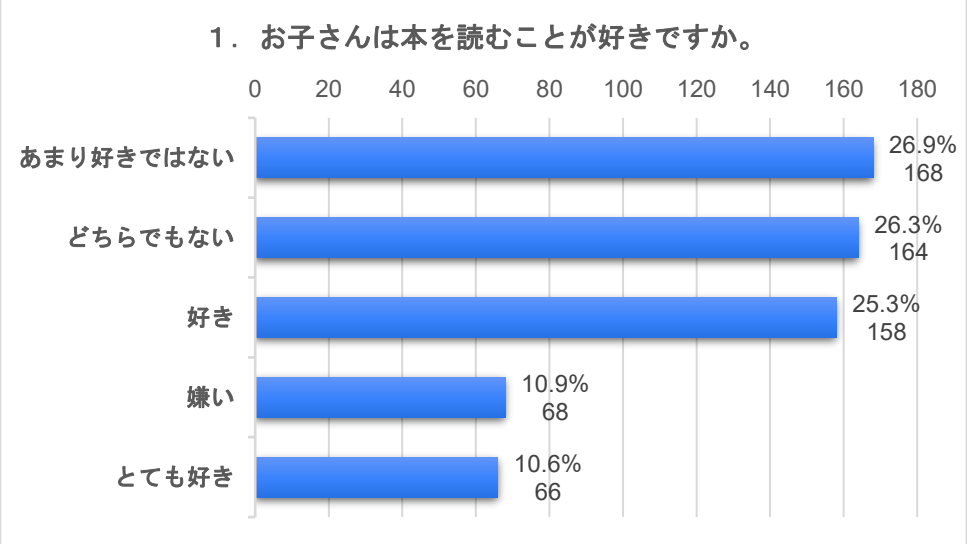

５．お子さんは、読書はどんなことに役立つと
思っていますか。
0 50 100 150 200 250 300 350 400
新しい言葉や知識を得ることができる
39.4%
348
想像力がゆたかになる
19.2%
170
気分転換になる
18.2%
161
文章を速く読めるようになる
6.8%
60
役に立つとは思わない
5.7%
50
友達と本の話をして仲良くなれる
3.2%
28
文章が上手に書けるようになる
3.1%
27
人の気持ちを理解できるようになる
2.8%
25
自分の考えを相手に
伝えられるようになる
1.7%
15


６．お子さんは、福山市図書館をもっと多くの
小学生に使ってもらうためには、
どんなことが必要だと思っていますか。
0
50
100
150
200
250
学校の授業で福山市図書館を使うこと
25.5%
225
小学生向けの本を増やすこと
21.0%
186
図書館へ行くための交通手段があること
20.1%
178
小学生向けのイベントがあること
17.8%
157
本を読む場所や勉強する場所が広いこと
6.8%
60
図書館の使い方や本の探し方を
教えてくれること
4.3%
38
その他
2.9%
26
CDやDVDを増やすこと
1.6%
14

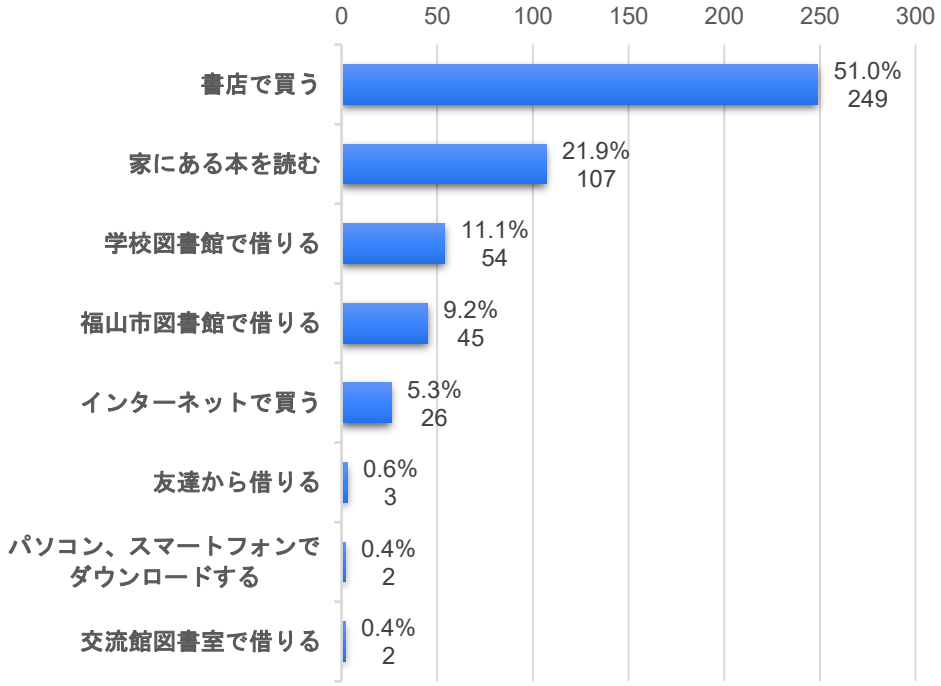

７．お子さんは、学校図書館をもっと多くの
小学生に使ってもらうためには、
どんなことが必要だと思っていますか。
0
50
100
150
200
250
300
350
400
学校の授業で学校図書館を使うこと
40.4%
357
本を増やすこと
29.4%
260
学校図書館の使い方や本の探し方を
教えてくれること
11.3%
100
本を読む場所や勉強する場所が広いこと
11.0%
97
その他
4.2%
37
CDやDVDを増やすこと
3.7%
33



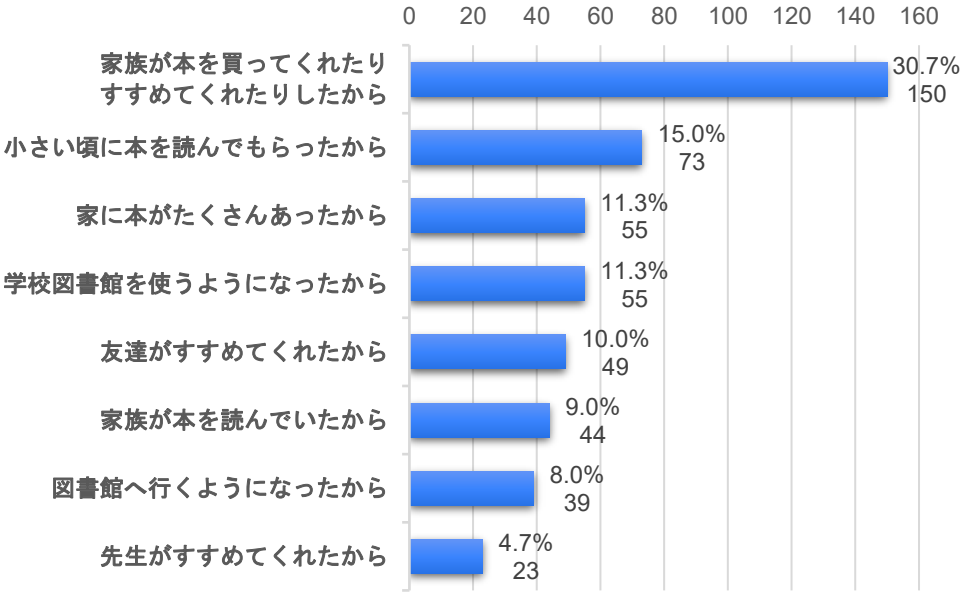
主なアンケート調査結果《中学２年生の保護者》

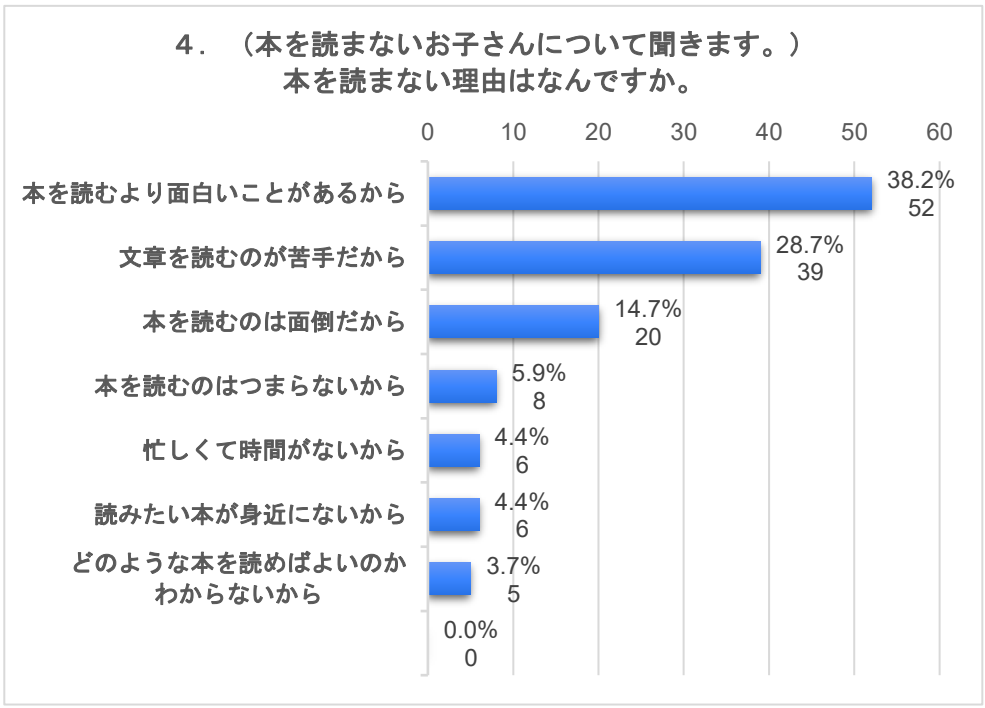


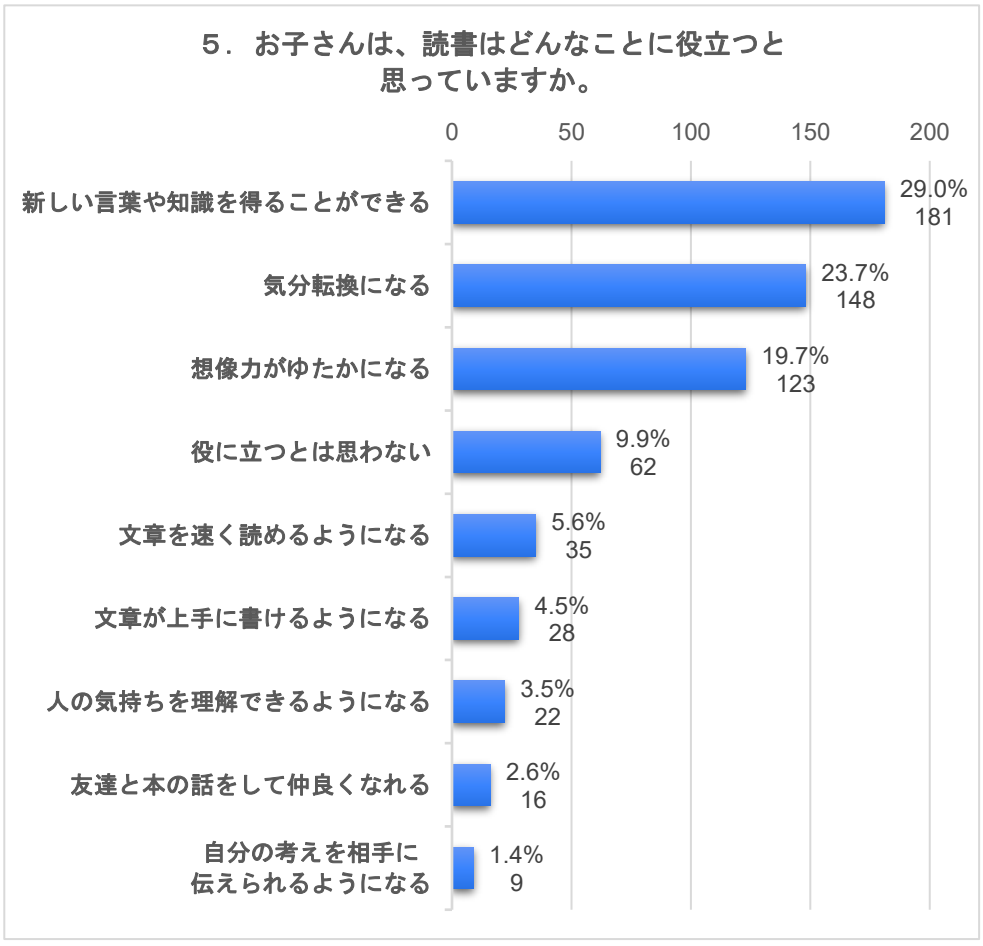
２．（本を読むお子さんについて聞きます。）
お子さんが読む本は、どのようにして手に入れていますか。

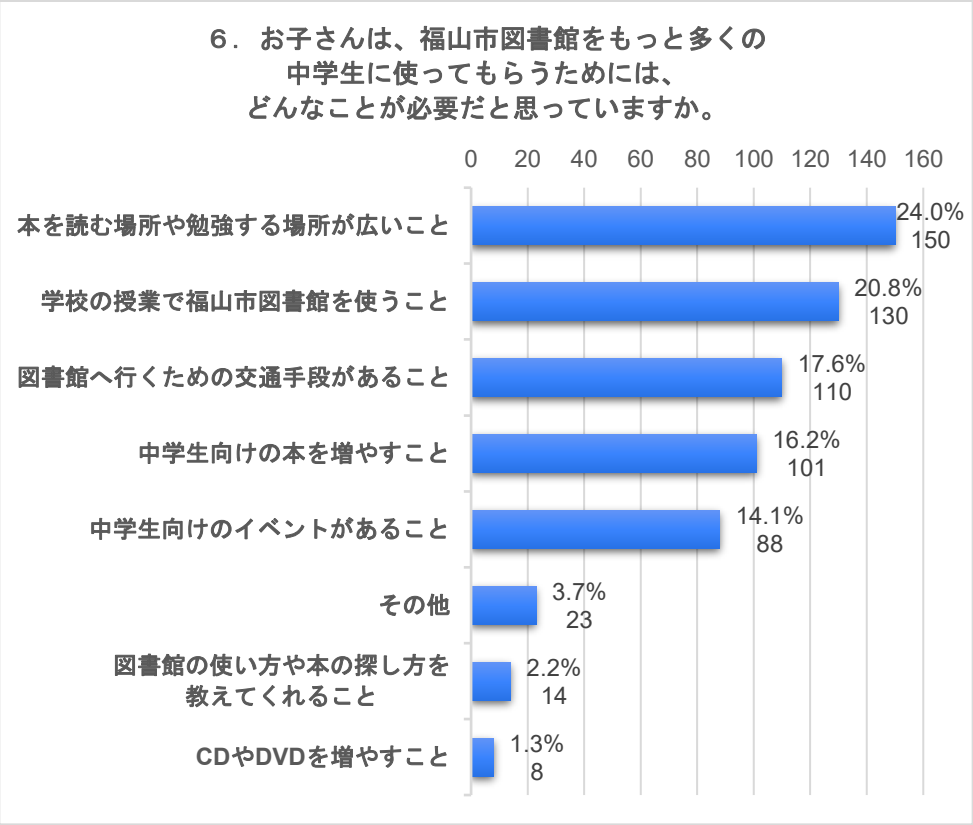


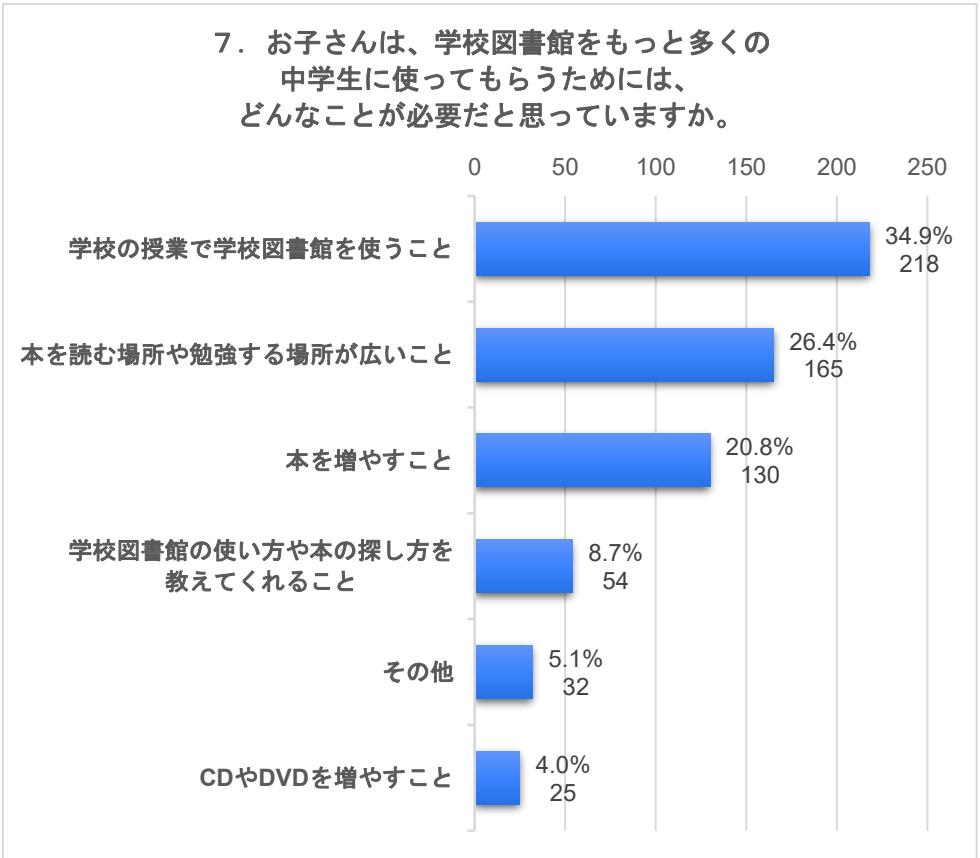
３．（本を読むお子さんについて聞きます。）
お子さんが読書をするようになったきっかけは何ですか。

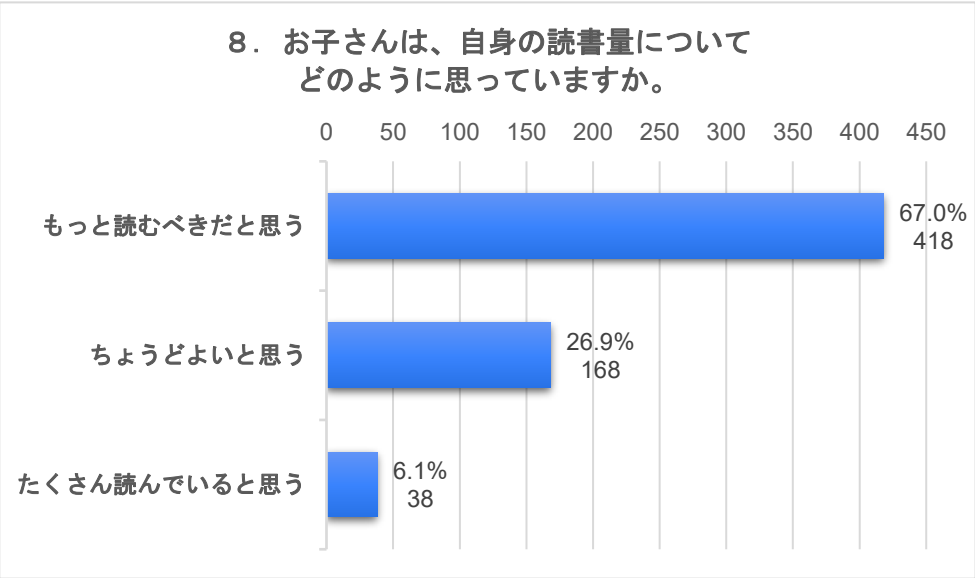



４．（本を読まないお子さんについて聞きます。）
本を読まない理由はなんですか。
0
10
20
30
40
50
60
本を読むより面白いことがあるから
38.2%
52
文章を読むのが苦手だから
28.7%
39
本を読むのは面倒だから
14.7%
20
本を読むのはつまらないから
5.9%
8
忙しくて時間がないから
4.4%
6
読みたい本が身近にないから
4.4%
6
どのような本を読めばよいのかわからないから
3.7%
5
0.0%
0

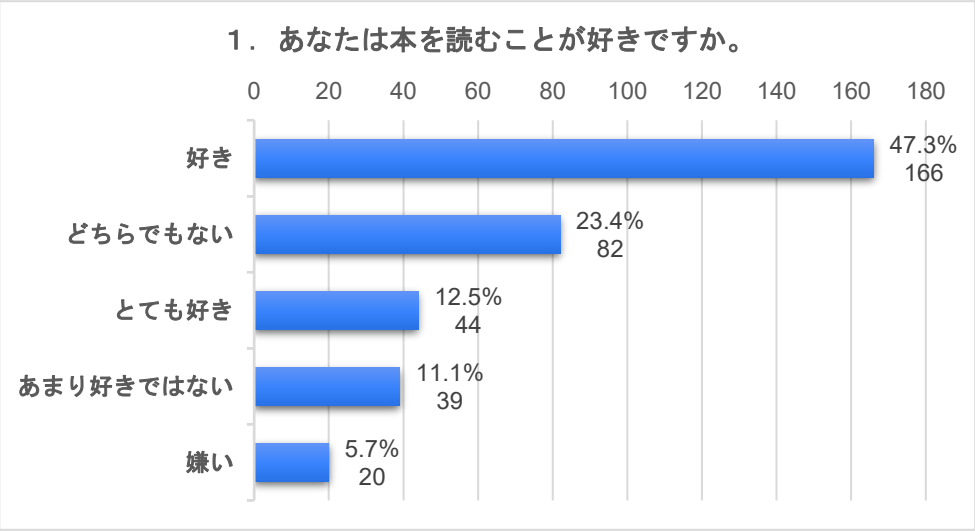

５．お子さんは、読書はどんなことに役立つと
思っていますか。
0
50
100
150
200
新しい言葉や知識を得ることができる
29.0%
181
気分転換になる
23.7%
148
想像力がゆたかになる
19.7%
123
役に立つとは思わない
9.9%
62
文章を速く読めるようになる
5.6%
35
文章が上手に書けるようになる
4.5%
28
人の気持ちを理解できるようになる
3.5%
22
友達と本の話をして仲良くなれる
2.6%
16
自分の考えを相手に伝えられるようになる
1.4%
9


６．お子さんは、福山市図書館をもっと多くの
中学生に使ってもらうためには、
どんなことが必要だと思っていますか。
0 20 40 60 80 100 120 140 160
本を読む場所や勉強する場所が広いこと
24.0%
150
学校の授業で福山市図書館を使うこと
20.8%
130
図書館へ行くための交通手段があること
17.6%
110
中学生向けの本を増やすこと
16.2%
101
中学生向けのイベントがあること
14.1%
88
その他
3.7%
23
図書館の使い方や本の探し方を
教えてくれること
2.2%
14
CDやDVDを増やすこと
1.3%
8

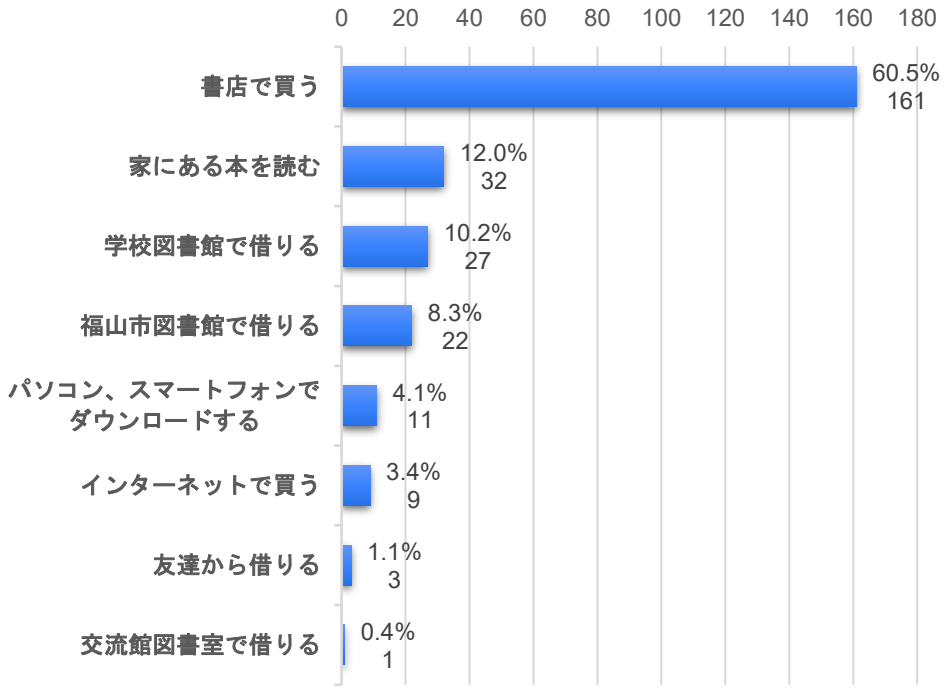

７．お子さんは、学校図書館をもっと多くの
中学生に使ってもらうためには、
どんなことが必要だと思っていますか。
0 50 100 150 200 250
学校の授業で学校図書館を使うこと
34.9%
218
本を読む場所や勉強する場所が広いこと
26.4%
165
本を増やすこと
20.8%
130
学校図書館の使い方や本の探し方を
教えてくれること
8.7%
54
その他
5.1%
32
CDやDVDを増やすこと
4.0%
25



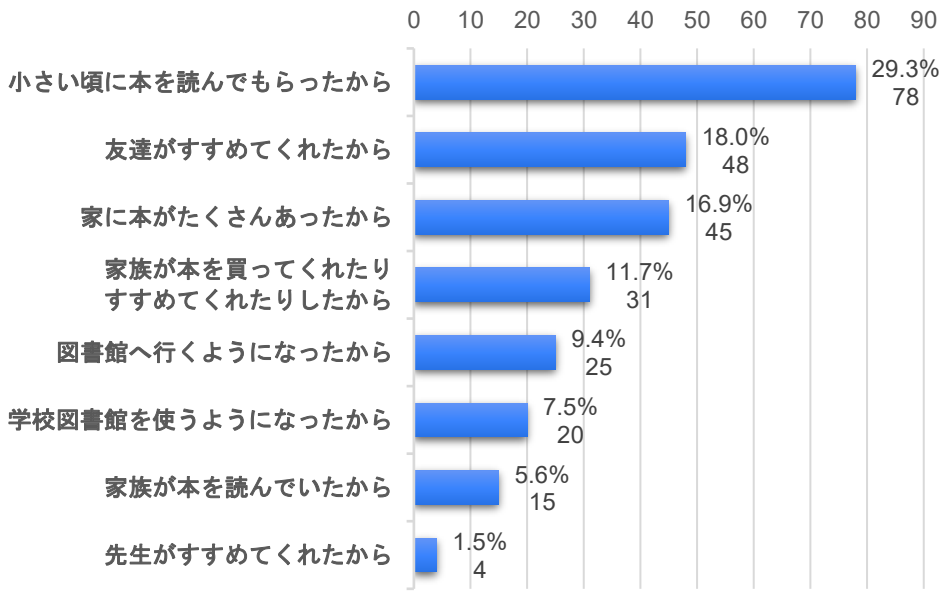
主なアンケート調査結果《高校１～３年生》



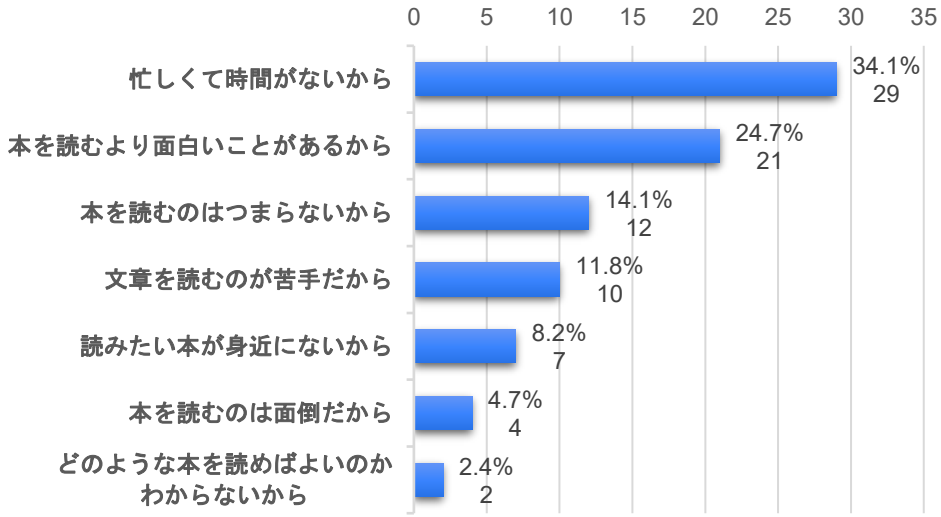
２．（本を読む人に聞きます。）
あなたが読む本は、どのようにして手に入れていますか。



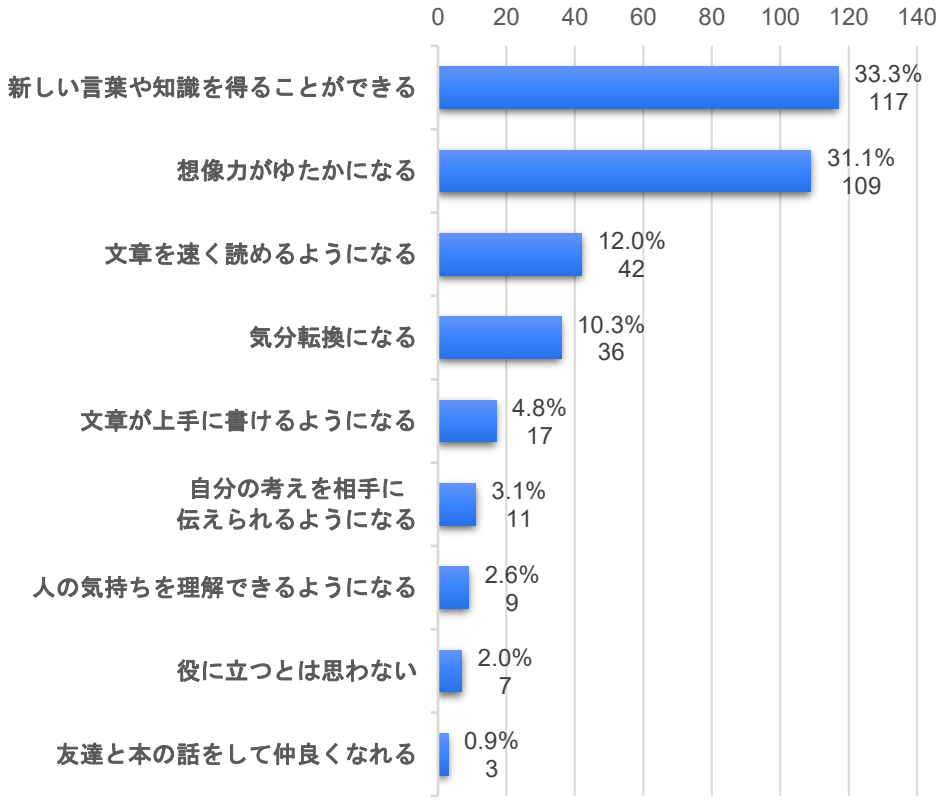
３．（本を読む人に聞きます。）
あなたが読書をするようになったきっかけは何ですか。



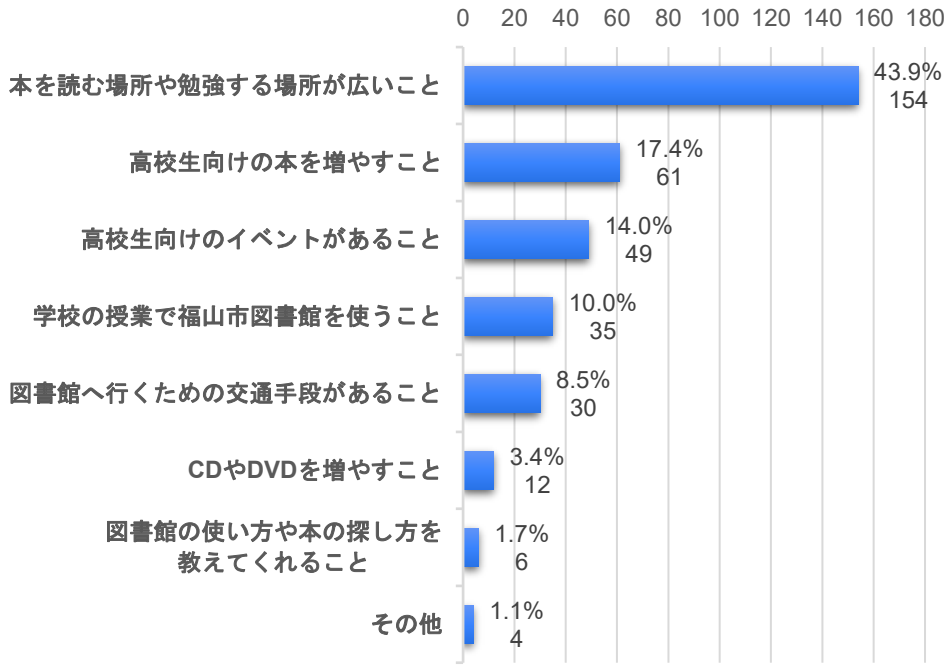
４．（本を読まない人に聞きます。）
本を読まない理由はなんですか。



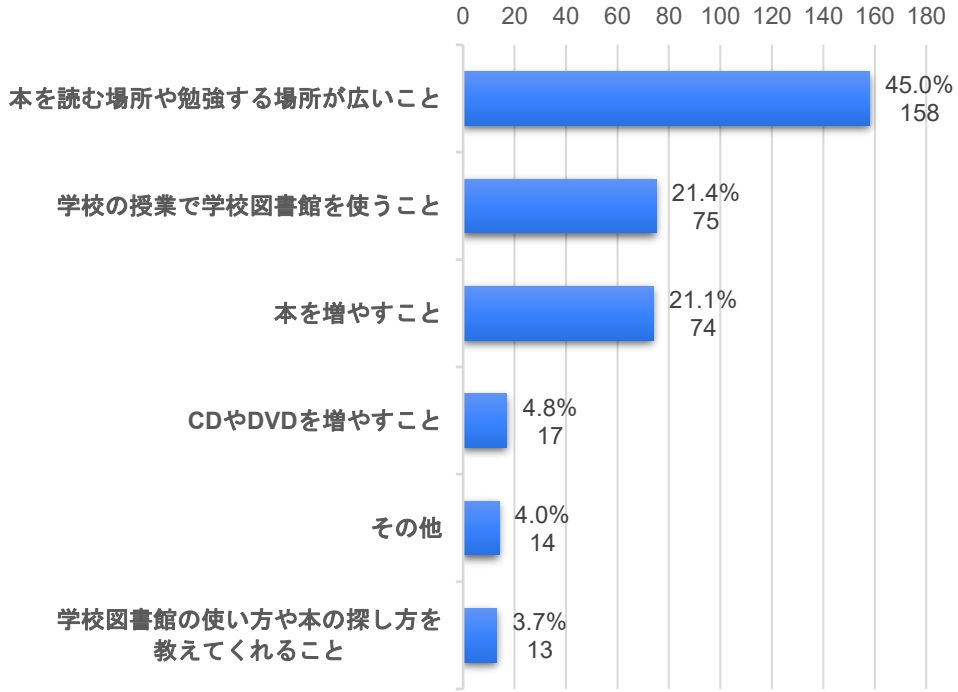
５．あなたは、読書はどんなことに役立つと
思っていますか。

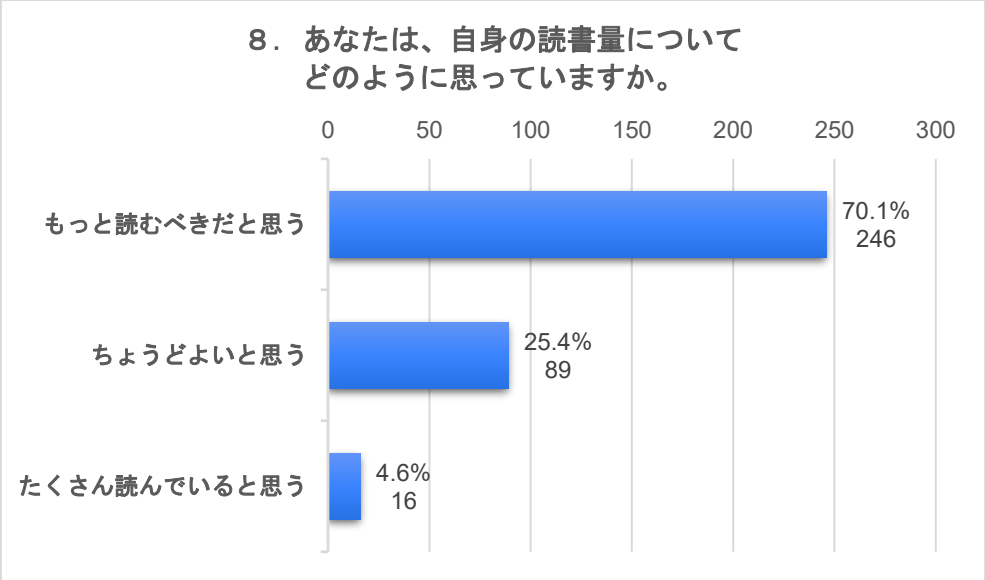


６．あなたは、福山市図書館をもっと多くの
高校生に使ってもらうためには、
どんなことが必要だと思いますか。



７．あなたは、学校図書館をもっと多くの
高校生に使ってもらうためには、
どんなことが必要だと思っていますか。




８．あなたは、自身の読書量について
どのように思っていますか。
0
50
100
150
200
250
300
もっと読むべきだと思う
70.1%
246
ちょうどよいと思う
25.4%
89
たくさん読んでいると思う
4.6%
16

福山市こども読書活動推進計画（第四次）

2027 年（令和 9 年）　月策定

福山市教育委員会管理部中央図書館

〒720-0812
福山市霞町一丁目 10 番 1 号
電話：084-932-7222